

国道180号総社地区防災対策検討委員会（第2回） 議事概要

1. 日 時：令和5年3月13日（月）10:00～11:30

2. 場 所：岡山国道事務所3階会議室

3. 出席者

◎小松 満 岡山大学 学術研究院 環境生命科学学域 教授

赤穂 良輔 岡山大学 学術研究院 環境生命科学学域 准教授

※敬称略 ◎委員長

<事務局およびオブザーバー参加>

国土交通省中国地方整備局、岡山国道事務所、岡山県、総社市

4. 議 事

○前回の振り返り

○冠水対策工法の比較・選定

○対策内容のとりまとめ

5. 議事概要

○冠水対策工法の比較・選定について、①施工時の現道通行方法、②経済性、③施工日数を工法比較項目として設定し、各地区の総合評価を行った。

○総合評価の結果、作原西地区は前後区間の堤防整備計画と一体の築堤構造となり、経済性、施工性に優れる「築堤」を選定するが、河道の確保や将来のメンテナンスの観点で検討が必要。作原東地区は鉄道廃線跡地を活用し、山側の切土を極力抑えた現道嵩上げ構造となり、経済性、施工性に優れる「現道嵩上げ（L型擁壁）」による路面冠水対策を行うことが妥当だが、車線規制の影響や岩体の除去の検討が必要。

○日羽地区については、対策区間が長く、周辺の施工条件（河川、JR近接、地盤等）も厳しいことから、施工範囲に制約がある中で新技術等の活用も含め引き続きの対策内容の検討が必要とした。



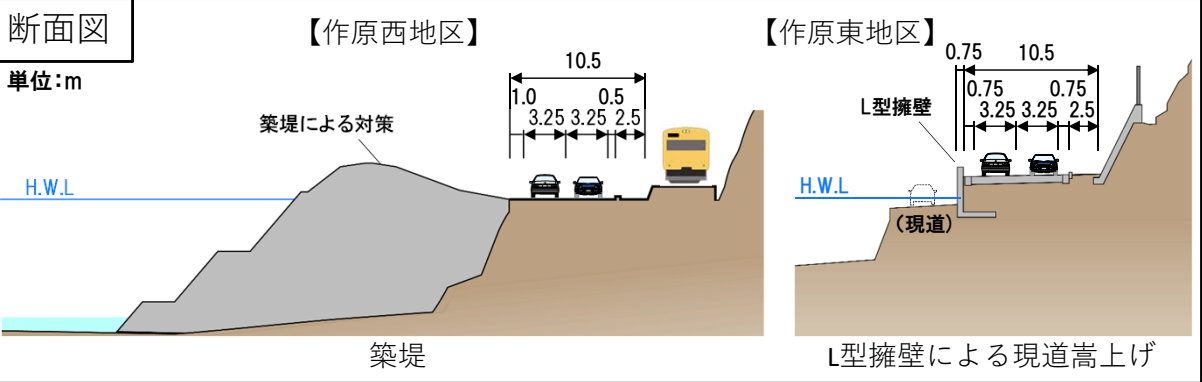
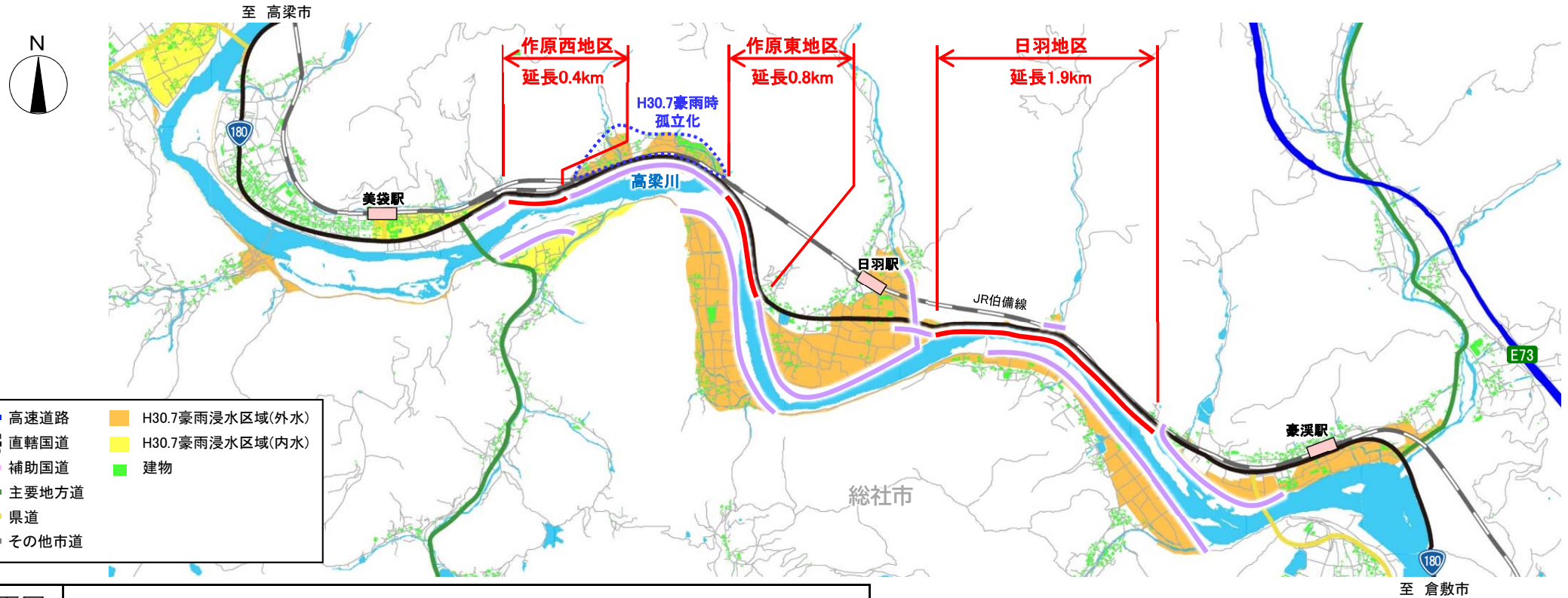
3. 対策内容のとりまとめ

■ 路面冠水対策内容：作原西地区：築堤、作原東地区：現道嵩上げ（L型擁壁）

■ 整備延長：作原西地区：L=0.4km、作原東地区：L=0.8km

<各地区の特徴>

- 作原西地区は、前後区間の堤防整備計画と一体の堤防構造となる。
- 作原東地区は廃線跡を活用し、山側の切土を極力抑えた現道嵩上げ構造となる。



	道路整備区間	道路の冠水を防ぎ、ネットワーク機能を維持するための整備区間
	河川堤防整備区間	集落への浸水を防ぎ、人命を守るための整備区間(令和7年度までに完了予定)